

# 事業結果要約報告書

受付番号

2019 KJ-017

—科学技術振興関係—

令和2年2月3日

所属機関名 広島干潟生物研究会

申請代表者

役 職 事務局長

フリガナ クヤミツオ

氏 名 く や み つ お

マツダ財団から受けた 助成金 120 千円 による事業結果について、  
次のとおり報告します。

助成事業名

第4回広島ジュニアサイエンスフェア

(事業期間：令和2年1月5日～令和2年1月5日)

	計 画	実 施 結 果
事 業 内 容	日時 令和2年1月5日 場所 広島市青少年センター 対象 青少年・一般 定員 600名 内容 科学研究発表、ポスターセッション、トークシ ョー、科学写真展、実験／体験コーナー、	日時 計画に同じ 場所 計画に同じ 対象 計画に同じ 参加者(人) 420名 内訳 (成人・大学生180名、中・高校生74名、 幼児・小学生166名) 教員数は不明 内容 計画に同じ 講演；2件、発表；12件、シンポジウム；0件

## 事業の目的・ねらい

科学研究の口頭発表、ポスターセッション、トークショー、科学実験体験、科学写真展、獣医師体験等を通して、参加者に楽しみながら科学的素養を培い、科学技術や科学研究の振興に役立てる。

## 事業の概要

### 【具体的な内容】

◎内容 **科学研究口頭発表**……小学生3、中学生5、高校生4（昨年は小2、中5）

（いずれも、広島市科学賞、広島県科学賞で高く評価された作品であり、このうち2点は日本学生科学賞中央審査入選を果たし、他には旺文社全国上位入選、筑波大学科学の芽賞上位入賞、毎日新聞自然科学観察コンクール上位入選など全国レベルの研究が大半を占める）

**科学研究ポスターセッション**……すべてA1サイズのカラーで展示枚数は28点（昨年は34点）

**トークショー**……主に小学生対象にしてテレビプロデューサーによる野生生物撮影秘話を、主に中・高校生を対象にして科学研究を武器に難関校にA0合格した女子の体験談を、同時展開。（新規事業）

**実験体験コーナー**……12ブース（昨年は10ブース） 高校生の有志によるブースが5件、(株)ナリカによるブースが7件。ナリカの7件については、ジュニアスタッフの中・高校生が一部運営した。

**体験コーナー**……獣医師6名（昨年は4名）の指導による獣医師体験。130名（昨年は70名）の児童・生徒が手術着をまとって模擬手術などを体験。

**ふしぎ写真展**……A4サイズ99点（昨年は98点）。昨年獣医師体験と相部屋だったのを独立させ、スマホ撮影体験（偏光フィルターによる特殊撮影技術）コーナーを設置した。

**実験教材の配布**……空を飛ぶ種の模型と実物を中学生以下の全員に配布した。

**カブトガニ展**……大柿自然環境体験学習交流館（さとうみ科学館）の協力により、カブトガニ幼生の実物やパネルの展示。

◎開催日時・場所 令和2年1月5日（日）12:30～17:00 広島市青少年センター 7室  
（昨年はホールと4室）

## 成果・効果

### 【参加者への効果】

- ・昨年に引き続き獣医師体験に応募者が殺到し、受付開始1時間半前から列ができ始めるほどであった。6名の獣医師が丁寧な指導を心がけ、手術着を着た参加者は模擬診断、模擬注射、模擬手術などに夢中になった。技術のみならず、動物愛護、生命尊重の心が育まれた。
- ・実験コーナーを増やしたため、さまざまな科学現象や科学技術に触れることができ、参加者は一様に好奇心が満たされた。実験コーナーの担当者にとっても、参加者が殺到することが緩和され、余裕をもってやりとりができ、達成感があった。
- ・科学研究口頭発表は、昨年度は小学生2テーマ、中学生5テーマの計7テーマを同一会場で展開した。今年度は新しい試みとして、合計12テーマを基礎的な内容6テーマと発展的な内容6テーマの二つの会場に分け、同時展開した。このことで聴衆がそれぞれのレベルに合った方を選択して聴くことになり、最後まで集中力が保たれた。いずれもレベルの高い研究であったため、子どもたちは大いに参考になったようだ。またむしろ保護者に対しても啓発の意味合いが強かった。
- ・ポスター発表は、昨年度は同一研究者の過去の作品も並べて展示したが、研究者がかけもちになり、散漫になった。そこで今年度は過去のは極力排除したため点数は減ったが、研究者も聴衆も集中できることになった。また、口頭発表の後でポスター発表の時間を設けたため、口頭発表で聞き逃したこと、質問しなかったことをじっくりと研究者とやりとりしながら聞き出すことができ、参加者の満足度は高かった。またそれは、研究者にとっても大いに充実感につながった。
- ・今回初めてトークショーを試みた。野生生物を長年撮影し続けてきたプロデューサーは、美しい映像を交え自然の営みの尊さを訴え、聴衆に感動を与えた。また科学研究と科学写真を続けてきた業績によって慶應大学のA0入試で合格した女子の体験談は、暗記中心の勉強とは趣の異なる進路の道筋を示し、聴衆、特に高校生や小・中の保護者にインパクトを与えた。

・今回、久しぶりにさとうみ科学館からの出展をお願いしたところカブトガニの生きた幼个体、標本、パネル等をお持ちいただいた。実際に遊泳する个体を見たのはほとんどの参加者がはじめてであり、また成体にまでなるのに10年以上もかかることを知り、環境の保全、野生生物の保護の大切さも改めて認識してもらえた。さとうみ科学館としても、多くの方に展示を見てもらい、解説を聞いてもらえたことで、スタッフから有意義だったとのことであった。

**【地域への効果】**

- ・広島市内だけでなく、呉市、東広島市、廿日市市、江田島市内の小・中学校にチラシを配布したため、それらの地域からの参加者に加え、大竹市、岩国市、三原市からも参加があり、広範囲に効果が及んだことがわかった。
- ・広島大学、広島工業大学の研究者、教育委員会の職員、さらには小・中・高等学校の教員の多数の参加があり、子どもたちへの啓発だけでなく、教育的立場の方にとっても参考になるイベントとして定着しつつある手応えを感じた。

**【その他の効果】**

- ・県獣医師会、企業、そしてさとうみ科学館がきわめて協力的であり、ボランティアでブース参加していただいた。とりわけ県獣医師会からは6名の獣医師を派遣していただき、昨年のほぼ倍に当たる子どもらが獣医師体験をすることができた。今後もぜひ参加したいとおっしゃっている。これらの、いわばプロの方々の支援がますます広がっていくことで、科学技術の振興に役立つこととおもわれる。

**写真、図**

別添参照。

Oral presentation 12チーム

体験の風をおこそう

速報

第4回  
**じゃすふあ**  
2020/01/05  
広島市青少年センター  
参加420名

Talk show 1テーマ

世界の野生生物撮影勉強会

科学研究とAO入試

Poster session 28点

広島ジュニアサイエンスフェア

Experience corner 130名

Experiment booth 5テーマ

ナリカブース

1テーマ

獣医師体験

Exhibition corner

カブトガニ展

生き物展示

45点

5才〜小学生の写真展